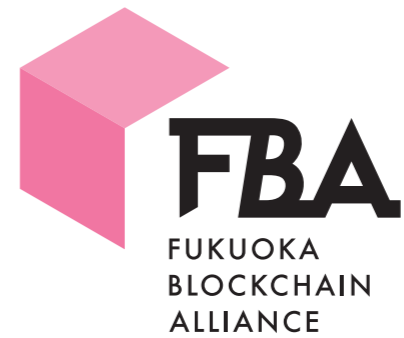


Go on 2030!



# FBA 福岡・ブロックチェーン・アライアンス 2024



## FUKUOKA BLOCKCHAIN ALLIANCE 2024

# ABOUT US

FBA(フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス)は、産学官連携で取り組むブロックチェーンによる、まちづくり&人づくりを推進するチームです。

2021年秋。福岡県の中心地である飯塚市が、世界をブロックチェーンでリードする都市へと発展するため、大々的に「飯塚市ブロックチェーン推進宣言」を行いました。

2030年には、ブロックチェーンがあらゆる人々のあらゆる生活シーンを支えることになるという将来を見据え、「ブロックチェーン人材の育成」や「場の醸成」、「産業クラスターの組成」などを、ここ福岡・九州からチャレンジする。

これから世界を牽引する領域、インターネットの次世代のテクノロジーの主役は、AI、バイオ、宇宙、そして、ブロックチェーンだと言われています。かつて、エネルギーの主役であった石炭は、九州・福岡の中心地である筑豊で採掘(コール・マイニング)され、一国の世界を支えた存在でした。そして、今、半世紀の時を超え、同じ九州・福岡の筑豊で、「ブロックチェーン」という「情報技術の採掘(データ・マイニング)」が行われ、日本の未来のエネルギー源を発しています。世界を変えるため、そして人々の生活を支えるために。

フクオカ・ブロックチェーン・アライアンスでは、ブロックチェーンを基軸とした「人材育成」、「企業誘致」、「創業支援」などを通じて、福岡県にブロックチェーンの産業クラスター(産業集積)「ブロックチェーン・バレー」を形成し、世界に誇れる地域づくりを志しています。



2021年秋の推進宣言。左から、麻生泰(九経連会長)、服部誠太郎(福岡県知事)、片峯誠(飯塚市長)、石丸修平(FBA会長)

## Event Outline

設立から間もなく4年となる11月29日、FukuokaBlockchainAlliance/フクオカ・ブロックチェーンアライアンス(FBA)では初となるイベント『フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス2024』を開催しました。

なお本イベントは、前日に行われた「福岡県ブロックチェーンフォーラム」との連携開催となります。

### 実施概要

開催日時 2024年11月29日(金)14:30~18:30  
 開催場所 飯塚市役所1階(多目的ホール/80席程度)  
 会費 無料  
 主催 フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス(FBA)  
 共催 福岡県、福岡県未来ITイニシアティブ、飯塚市、福岡地域戦略推進協議会  
 協力 株式会社chaintope、株式会社カガヤ、幻冬舎、九州工業大学、近畿大学

### プログラム

- 1.FBAの活動の概要
- 2.会員各社のブロックチェーンの取り組み
- 3.パネルディスカッション

### 登壇者

フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス 会長 石丸 修平  
 株式会社chaintope 代表取締役CEO 正田 英樹  
 株式会社幻冬舎 「あたらしい経済」編集長 設楽 悠介  
 みんなの銀行 CXOオフィス 渋谷 定則  
 株式会社カガヤ 代表取締役社長 野見山 広明  
 株式会社BLOCKSMITH&Co. 代表取締役社長CEO 真田 哲弥  
 渋谷Web3大学株式会社 社長兼CEO 北村 元(hajimex)  
 株式会社プラグテック CEO 船本 俊隆  
 株式会社ワーキングハセガワ 代表取締役 長谷川 伸一  
 アピスパ福岡株式会社 執行役員 平田 剛久  
 株式会社オープンゲート 代表取締役 中山 雄介  
 トヨタファイナンシャルサービス(株) 落合 修平  
 福岡地域戦略推進協議会 ディレクター 片田江 由佳

# MESSAGE

## 主催者挨拶

設立から間もなく4年、Fukuoka Blockchain Alliance /フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス(FBA)で初めてとなるイベント『フクオカ・ブロックチェーン・アライアンス2024』を、昨日行われた福岡県ブロックチェーンフォーラムと協力し、本日開催することとなりました。

そこで、あらためてFBA設立に至る背景や取り組みについて紹介したいと思います。

飯塚市は、古くは炭鉱で栄えていましたが、エネルギー革命により、次の時代の産業とまちづくりをどのようにしていくかを常に模索してきたエリアだと言えるでしょう。

代表的な例が近畿大学や九州工業大学といった大学誘致による「学園都市」としてのまちづくりです。大学誘致によって現在の飯塚市学生数人口比は政令市並みの3.2%となり、学生や若者がまちを支える活力になっているという特性を持つことになりました。

また、国によるアジアIT特区の認定によりIT先進地としての役割を担うとともに、様々な起業家の方々や新しい価値を生み出す人たちが次の時代を担っていく「情報産業都市」も目指す取り組みも進めています。

こういった政策によって飯塚市ではIT技術者や研究者などの担い手が多数輩出されるとともに大学発ベンチャーも次々と生まれてきており、これらの様々な営みがこのまちの次なる方向性を支えるポテンシャルになってくるだろうと考えています。

世界では暗号化技術を活用して取引履歴の改ざんやデータ破壊などを困難にするブロックチェーン技術を活用した様々なサービスの実装が進んできました。

そこで、この世界の潮流を飯塚市のまちづくりに取り入れ、これまでの政策をさらに発展させていくことを目指し、福岡県知事や経済界と共に2021年に飯塚市ブロックチェーン推進宣言を発出。同時にFBAを設立したという次第です。

その後、飯塚市が2022年に策定した行政計画「飯塚市産学官産業共創ビジョン『Nextトライバレー ~ブロックチェーン技術を核とした新産業の創出~ 2022~2026』」



の中にブロックチェーンをしっかりと位置付け、ブロックチェーン技術を核とする新産業の創出に向けた施策の方向性を明示するなど、取り組みは加速しています。

一方、周辺の福岡市や北九州市などが力を入れているスタートアップ創出や、オール福岡で進めている国際金融機能誘致TEAM FUKUOKAの活動は、まさにブロックチェーン技術を活かすことのできる領域であり、ブロックチェーンが有する「尖り」を存分に発揮できるフィールドであると考えています。

そこで、飯塚市におけるブロックチェーンに関する政策の推進にあたり、FBAでは大学生をはじめブロックチェーン関連人材の育成を核にしながら市民の皆様はその利便性を感じてもらおうといった「すそ野を拡大する」取り組みを推進していきたいと思っています。

そのため、まずは技術者や学生が様々なかたちでブロックチェーンの営みに触れる機会や、企業がブロックチェーンを活用したアクションを起こすきっかけづくりを行っていきます。

また飯塚市にも「飯塚市実証実験サポート事業」を立ち上げていただき、ビジネスやサービスを創っていくための資金の援助や地元との調整、フィールドの提供、大学との連携、広報協力など、社会実装を見据えたサポートを充実していただいています。

今後飯塚市と連携しつつ、FBAの活動の輪を広げていきたいと思っております。





# ACTION

会員企業のアクション

株式会社プラグテック  
代表取締役CEO 船本 俊隆



## 「次世代駐車場事業」 (飯塚市 先端情報技術実証実験サポート事業)

駐車から社会を動かす！  
昭和から変わらない「駐車券」「現金精算」「ハードウェア偏重」に伴う様々なストレス・コストが、利用者・事業者双方にとっての大きな課題です。  
駐車場利用・運営における摩擦をなくすソフトウェア型・駐車場サービス。『顔パス駐車』をブロックチェーンで実現します。



株式会社ワーキングハセガワ  
代表取締役 長谷川伸一



## 「DIGITAL PRODUCT PASSPORT」

アパレル業界では、劣悪な労働環境や、廃棄後の衣類が適切に処理されず、廃棄物問題を引き起こすなど、多くの課題に直面しています。  
製品の環境影響やサプライチェーン情報をブロックチェーンで記録し、データの改ざんを防止。  
信頼性の高い情報を消費者や企業に提供します。



株式会社Sake Treasures  
代表取締役 中山雄介



## 「Craft Your SAKE story」 ～福智町クラフトサケ醸造所プロジェクト～

日本酒は、まさに日本文化を象徴する存在です。  
その価値は各地方が持つ独自性に根ざしており、各地で培われた歴史や風土が一杯の酒に宿っています。  
私たちは、地方がもつ魅力を再発見し、日本酒を通じて世界へ発信していくことで、埋もれた文化資産を再構築し、新たな形で日本文化の未来を切り開いていきます。

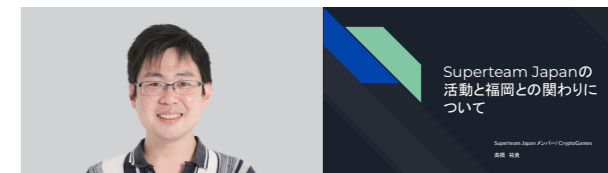


CryptoGames株式会社  
ブロックチェーンエンジニア  
高橋祐貴



## 「Superteam Japanの活動と 福岡との関わりについて」

Superteamは、世界13カ国につくられている Solana (時価総額第4位の暗号資産) エコシステムを広めるチームです。  
キャッチコピーは「暗号資産は、買うのではなく稼ごう」。定期的にイベントやハッカソンを実施しつつコミュニティの輪を広げながらSolanaや開発者を育てています。



アビスパ福岡株式会社  
執行役員 平田剛久



## 「アビスパ DAO」

アビスパ DAO は、「Web3 × スポーツ」の力で、福岡から世界に広がるイノベーションモデルを共創しています。  
J1に定着し悲願だったタイトルも獲得したアビスパ。地域に根ざし土台が整ってきた今だからこそ、さらなる高みを目指そうという取り組み。  
クラブや地域の課題を、アビスパ福岡とメンバーが共同で解決していくオンラインコミュニティです。



トヨタファイナンシャルサービス株式会社  
BCグループ VP 落合修平



## 「トヨタ・ブロックチェーン・ラボ」

トヨタ・ブロックチェーン・ラボは2019年に設立されたトヨタグループ横断のバーチャル組織・コミュニティ。  
NFTスタンプラリーやNFTデジタルチケット、地方創生DAOなどを軸に、トヨタGならではのモビリティアセットを活用しつつ、交通事業領域にとどまらない業種との広域連携で、魅力ある観光資源を発掘し、リアル＆バーチャルの両面から賑わいある九州の実現に貢献します。



徳積財団  
野見山 広明



## 「徳が循環する真の経済の実現」

現代の消費搾取優先の消耗型資本主義ではなく、人々の徳によって循環する愛のある懐かしい経世済民を真に新しくすること。  
そして日本や子孫たちの未来を豊かにする仕組みをブロックチェーンの技術と自律分散によって調和させる取り組みを行っています。

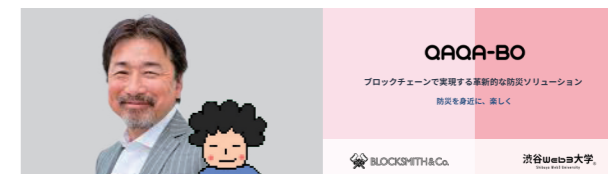


株式会社BLOCKSMITH&Co.  
代表取締役社長CEO 真田哲弥  
渋谷Web3大学株式会社  
社長兼CEO 北村元



## 「QQAQ-BO」 ～ブロックチェーンで実現する革新的な防災ソリューション～ 防災を身近に、楽しく

「一人でも多くの大切な人の命が救われる」  
行き当たりばったりな防災をブロックチェーンの力で日常化させる挑戦です。



# PANEL DISCUSSION

パネルディスカッション

## ブロックチェーンの現在と未来への課題 国際金融都市福岡との親和性

MOVIE QR



一まず、ブロックチェーンの今についてどう捉えていますか

**正田** 今、様々な領域でブロックチェーンが利用され、多くの取り組み事例が生まれており、地方創生×ブロックチェーンWeb3が大きくなるとなってきました。これから1年後にはさらに面白い状況になっていると思いますし、まさに今はその変わり目であると感じています。

**渋谷** 洋服やお酒、交通など様々な分野で価値のトークン化が進んでいっている状況だと思っています。

一では、みんなの銀行の取り組みをベースにブロックチェーンの現在と未来の課題について議論していきたいと思えます。

**渋谷** 「みんなに価値ある繋がり」という理念のもと、デジタルネイティブ世代向けにスマホアプリで『みんなの銀行』という全国展開の銀行を立ち上げました。通常の銀行サービスに加え、ブロックチェーン技術を活用した様々な取り組みを進めています。同時にフィンテック事業者や金融機関向けのBaaS事業なども行っています。

3年で100万人となったユーザーの7割がデジタルネイティブ世代で、振り込み先の上位に暗号資産事業者が位置するなど、デジタルネイティブ世代はデジタルバンクをネガティブにはとらえていないことがわかります。

一方、法定通貨と価値が連動するステーブルコインをJapan Open Chain上で発行する実証実験を2023年に完了するなど、これまでない新たな世界で経済活動を伝える次世代の金融エコシステムの構築を目指した取り組み

も進めています。

**正田** そもそもブロックチェーンはビットコインから始まったこともあり、まずは金融領域で注目を集めてきました。しかしながら各国の金融当局の強い管理の影響もあり、この領域ではそれほどイノベーションが起こりませんでした。一方、自動運転走行が実現しUberやThe Graphなどのサービスも充実するなど、非金融の領域では大きな動きが起こっています。

これを別の視点から眺めてみると、モノを所有せずに権利だけを持って必要なときだけ自分で使い、それ以外は他に求める人が活用できるようないわば資産運用的な世界、すなわち金融と非金融がミックスされた世界が生まれてきている状況だと言えると思います

**設楽** 2024年1月、アメリカで上場投資信託としてビットコインが承認されたことで、機関投資家や一般投資家の多くのお金が、ビットコインへの流入しています。これはすごいことで、いわゆる私たちが使うお金が、どんどんと非中央集権的で、特定の管理者が不在の、プログラムされたビットコインというアセットに吸い込まれていっているわけです。1年半前は約200万円だったビットコインは今や1500万円(2024年11月時点)。まだまだこの金額だとインパクトは少ないかもしれませんが、今後例えばビットコインが5000万円まで上昇した場合、暗号資産に投資していた人とそうでない人でとてつもない所得格差が生じることになります。5000万円は例えですが、みんなの顔色が変わる価格というものがあると思っています、そのタイミングか来ると一気に暗号資産に対する多くの人々のスタンスが変わる。そしてそこから暗号資産を裏で動かす仕組みであるブロックチェーンへの取り組みも大きく進むのではないかと考えています。そして、それはそれほど未来の話ではないかと思っています。

**正田** 規制当局はこれまで現実の後追いでしたが、ここきて現実と重なる瞬間がもう間もなく訪れるだろうと思っています。そのため今ここからはどうユースケースを創るか、特に地方創生に絡めたユースケースをつくれるかが課題となるのではないのでしょうか。

ぜひ飯塚から金融と非金融が交わる瞬間を発信したいと思います。

一国際金融都市福岡においてそのユースケースをつくっていけるでしょうか。

**石丸** 私は国際金融機能誘致に取り組んでいますが、すべてが集中している東京の機能を分散させようという中で、実は国の方でも暗号資産やその周辺の機能などを金融型都市としてどう位置付けるかという「機能的金融都市」の議論も始まっています。

このような中、オールド金融のボラティリティーが上がっており、もはや仮想通貨と何が違うのかといったところまでくる可能性もあると思っています。そうなったときに金融、非金融の融合がブロックチェーンとどのようにつながるかという議論になってくるのではないのでしょうか。

そこで、みんなの銀行にはぜひともステーブルコインに挑戦してもらいたいと願っています。なぜなら実体経済を支えている金融との親和性が高いと考えるからです。

そうだとすると流動性を高めたり様々な価値を評価したりするという点において、いわゆる企業DXの領域におけるソリューションになってくるかもしれません。ここに地方でステーブルコインに取り組む意味が出てくるのではないのでしょうか。

**渋谷** フィンテック事業者が我々と一緒にソリューションを考えています。非金融のところをどんどんトークン化している中、マネーのトークン化はどうなっているのか、ステーブ



ルコインはいつ世に出るのかといった声を良く耳にします。利用者保護をしっかり踏まえながらユースケースをここ福岡から作っていきたくと思っています。

**設楽** ブロックチェーンやWeb3に取り組むというと、多くの企業さんは複雑な仕組みを考えがちです。しかしそうではなくて、飯塚や福岡では、もっと手軽なユースケースから始めていくのが良いと思います。たとえば、USDCなどのステーブルコインが日本にも正式に流通したら、飯塚ではいち早く多くの店舗で利用できるようする。そうすれば「日本で一番USDCが利用できるのは飯塚市」といったアナウンスができる。暗号資産やブロックチェーンを複雑に捉えず、シンプルに発想していくことにヒントがあると思っています。



### 正田 英樹

株式会社チェーントップ代表取締役CEO/  
株式会社ハウインターナショナル取締役会長  
地方創生戦略、起業経営を専門分野として九州工業大学客員教授、福岡県飯塚市行政アドバイザー等を歴任。山口県光市生まれ。九州工業大学卒。



### 渋谷 定則

株式会社みんなの銀行  
CXOオフィス グループリーダー  
九州大学法学部卒、都市銀行にて法人担当経験後、福岡銀行に入社。本部で企業審査や事務企画・システム開発のプロジェクトを経験後、国内初のデジタルバンク「みんなの銀行」設立プロジェクトに中心的に関わる。

### 設楽 悠介

幻冬舎「あたらしい経済」編集長/  
編集本部コンテンツビジネス局局长  
幻冬舎でブロックチェーン/暗号資産専門メディア「あたらしい経済」を創刊。同社コンテンツビジネス局で電子書籍事業や新規事業を担当。幻冬舎コミックスの取締役兼務。



### 石丸 修平

福岡地域戦略推進協議会(FDC)  
事務局長  
経済産業省、プライスウォーターハウスクーパース(PwC)等を経て、Future Center Alliance Japan (FCAJ) 理事、九州経済連合会規制改革推進部会長等を歴任。中央省庁や地方自治体の委員など公職も多数務める。



### 片田江 由佳

福岡地域戦略推進協議会(FDC)  
ディレクター  
福岡市生まれ。東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修了。株式会社産学連携機構九州、公益財団法人福岡アジア都市研究所を経て、2020年に独立。都市開発・地方創生・ヘルスケアなどの分野で、市民を中心とした多様な主体の共創を支援。

